

タイトル「**2021年度 人間学部**」、フォルダ「**大学 人間-心理学科**」
シラバスの詳細は以下となります。

科目名	社会・集団・家族心理学Ⅱ		
英文科目名		他学部他学科履修可否	○
担当教員	文野洋		
対象学年	2年,3年,4年	クラス	1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位区分	必,選択
授業形態	講義	単位数	2
キャリア該当科目			
備考			
ディプロマポリシー	<p>2. 心理学の諸分野の専門的知識と人間を科学的に探求するためのスキルを身に付け、これに基づいて現代社会の諸問題を主体的に発見し、心理学的に分析して解決に向けた視点や対応策を提供することができる。</p> <p>3. 自身の考えを他者に的確に伝え、問題を共有し、課題の解決に協働でとりくむためのコミュニケーションをとることができる。</p>		
授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 人びとの意識や行動を、他者や集団との関わりから探究する社会心理学について、その基本的な考え方や研究知見を理解し、私たちの社会生活における自己や対人関係、社会の問題を読み解く視点や行動を身につけることを目的とする。本講義は、「社会・集団・家族心理学Ⅰ」で扱わなかった相互行為の一部と、集団や社会の現象に関する研究知見について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 本講義を通じて、1)社会心理学の各領域の基本的知見について、人びとの意識・態度や行動を対人関係や集団との関わりから説明できる、2) 家族・集団・文化が個人に及ぼす影響など、集団レベル・社会レベルの社会心理学的現象を自分自身の生活の文脈から理解し、問題解決の方策を検討できるようになることを目標とする。</p>		
授業概要	<p>[01] 社会心理学の研究対象と視点 [02] 社会的自己：対人関係と自己意識 [03] 対人行動：説得と態度変容 [04] 対人行動：攻撃と援助 [05] 社会的影響：社会的促進/抑制、社会的手抜き/補償 [06] 社会的影響：同調、少数者が集団に与える影響 [07] 集団過程1：リーダーシップ [08] 集団過程2：内集団と外集団 [09] 集団過程3：集団意思決定 [10] 個人と社会1：文化・家族の影響 [11] 個人と社会2：社会的ジレンマ [12] 個人と社会3：うわさと世論形成 [13] 災害の社会心理学：避難行動と被災者支援 [14] 社会心理学の実践研究 [15] まとめ</p>		
学習演題（予習・復習）	<p>1回（予習）社会心理学の概説書を複数比較し、社会心理学が扱う現象を確認しておく（120分程度）。 1回（復習）講義内容をノートと配付資料からふりかえり、社会心理学の特徴について理解を深めておく（120分程度）。</p> <p>以下の各回のテーマについて、予習は講義中に紹介する参考書等を読んだ上で、復習は講義内容をノートと配付資料からふりかえった上で行うこと。</p> <p>2回（予習）対人関係と自己意識との影響関係について調べておく（120分程度）。 2回（復習）対人関係と自己意識との影響関係について、日常的な例をあげて説明できるようにする（120分程度）。 3-4回（予習）説得における態度変容・攻撃行動・援助行動の諸要因について調べておく（各120分程度）。 3-4回（復習）説得における態度変容・攻撃行動・援助行動の諸要因について理解を深める（各120分程度）。 5-9回（予習）集団と個人との影響関係について調べておく（各120分程度）。 5-9回（復習）集団と個人との影響関係および集団行動の特徴について、日常的な例をあげて説明できるようにする（各120分程度）。 10回（予習）個人と文化・家族との影響関係について調べておく（120分程度）。 10回（復習）個人と文化・家族との影響関係について、日常的な例をあげて説明できるようにする（120分程度）。 11回（予習）社会的ジレンマがどのような事態をさすのか、どのような研究成果があるのかを調べておく（120分程度）。 11回（復習）社会的ジレンマを自分の生活の文脈にあてはめて説明できるようにし、その解決方法について考えてみる（120分程度）。 12回（予習）うわさや流行、世論形成など、言説や行動が普及していく過程について調べておく（120分程度）。 12回（復習）うわさや流行などの伝播のプロセス、世論形成のプロセスについての理解を深める（120分程度）。 13-14回（予習）災害時および災害後の行動や感情の特徴について調べ、心理学的に重要な点は何かを考えておく（各120分程度）。 13-14回（復習）災害に関連する社会心理学の研究について理解を深め、人々の日常生活の問題に対する社会心理学の貢献について考える（各120分程度）。 15回（予習・復習）本講義の内容をふりかえり、社会心理学の人間の感情や行動にアプローチする際の視点を説明できるようにする。また、現在の社会における社会心理学の知見の意義について考える（各120分程度）。</p>		
授業方法	主に講義形式をとる。講義用のレジュメと参考資料のプリントを配付する。簡単な課題やリアクション・ペーパーの提出を求めることがある。提出された課題やリアクション・ペーパーについては、次回授業においてコメントおよび解説を行う。また、授業内容の理解を深めるために、授業時間内で簡単な模擬実験やグループワーク（意見交換）を課すことがある。		
成績評価の基準	発言など授業への参加状況（リアクション・ペーパーの評価等；20%）から社会心理学的現象の日常的な文脈での理解（到達目標2）について主に評価し、定期的実施する試験の成績(80%)によって、社会心理学的観点からの基本的知見の説明と問題解決の考え方（到達目標1,2）について主に評価する。リアクション・ペーパーおよび課題用紙、中間試験については、次回以降の授業においてコメントおよび解説を行う（その際、復習に必要な資料は返却する）。		
教科書	なし		

参考書	参考書は講義中に適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業	
実務経験の内容	
実務経験の当該科目への活用	